科目名	健康と暮らしを守る看護	対象学年・時期	2年・前期
講師	非常勤講師及び専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	デイプロマポリシー４に基づく。わが国の少子・超高齢社会の伸展は著しく、人口の減少、なかでも生産年齢人口の減少は大きな課題となっている。「公助」が税負担、「共助」が被保険者負担を基盤としたものであれば、人口減少や生産年齢人口の減少は、それらの体制に影響をおよぼすことになる。さらに、家族形態の変化などの背景から「自助」「互助」の重要性は増している。 　この科目では、人々が住み慣れた地域で健康に暮らし続けるために、個々人が自発的に自身の生活課題を解決する力をもつ大切さ（自助）を学んでいく。さらに個人の力だけでは解決が困難な状況で、個人や家族を取り巻く環境、例えば仲間同士の助け合いから互助組織の力などを借りて生活課題を解決する力（互助）の大切さを学んでいく。また、地域で暮らすということは地域社会（コミュニティ）を構成する一員ということである。自分自身もコミュニティの一員であり、支援の受け手でもあることの理解を通して、それぞれが役割をもちお互いに支え合うコミュニティづくりの大切さを学んでいく。この考え方を基に、地域のボランティアや互助組織の実態を知り、地域に暮らす人々のつながりを看護に活かすことの重要性が理解できるよう教授する。また、対象の特性に応じた健康課題や自助を促進する活動に関するトピックスなどをとりあげて、活動の実際を学ぶ。		
講義形態	講義・演習・グループワーク		
学習目標	１，人は自助として生きがいづくり、健康づくり、介護予防などの生活課題に対し、自発的に取り組んでいることが理解できる。 ２，自発的に自身の生活課題を解決するための支援が理解できる。 ３，町内会・自治会など地縁組織の活動の実際から互助の機能を考察できる。 4、自助と互助で解決できない生活課題に気づくことができる。 ５、共助・公助につなぐ必要性がわかる。		
学習内容 (授業計画)	1～２回目:ガイダンス 自分と家族の生活課題を見つけよう①個人ワーク 事後学習：個人でリサーチ・インタビューして課題をまとめてくる 3～4回目：自分と家族の生活課題を見つけ必要な支援を創造しよう②　グループワーク 5回目：自分と家族の生活課題を見つけ必要な支援を創造しよう③　プレゼンテーション 6回目：トピックス　健康支援（自助）の実際　母性看護（非常勤講師） 7回目：自分の暮らす地域の互助活動（地縁組織）を探そう①　　計画書作成 事後学習：個人でリサーチ・インタビューして課題をまとめてくる ８～9回目：自分の暮らす地域の互助活動（地縁組織）を探そう②グループワーク 10～11回目：自分の暮らす地域の互助活動の実際を基に必要な支援を創造しよう②グループワーク 12回目：自分の暮らす地域の互助活動の実際を基に必要な支援を創造しよう③プレゼンテーション 13～14回目：トピックス　ひきこもりの現状と支援策 15回目：まとめ		
使用テキスト	随時資料を配布する。		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	グループワークとプレゼンテーションが多いため、各自、スケジュールに合わせて、情報収集や検索など準備を行って、参加してください		
評価基準と 評価方法	グループワークや課題レポートへの取り組みを総合的に評価する		
備考	授業を受けるにあたって映画「3丁目の夕日」の視聴が望ましい		